

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1492000037
法人名	有限会社 アルデパラン
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 そよかぜ
訪問調査日	平成25年7月24日
評価確定日	平成25年8月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000037	事業の開始年月日	平成19年3月1日
		指定年月日	平成19年2月1日
法人名	有限会社 アルデパラン		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 そよかぜ		
所在地	(259-1207) かながわけんひらつかしきたかなめ 神奈川県平塚市北金目3-26-19		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	7 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にとって、ご家庭の延長のような馴染みのある落ち着いた環境作りになるよう常に配慮しております。 それぞれの方のお人柄を大切にするため、家族様とも密に情報を共有し、ご家庭でどのように過ごされているのか把握し、施設内でも尊重するように気をつけております。 利用者様にとっては、楽しい憩いの場所として、ご家族様にとっては、安心して大切なご両親を預けられる場所として、信頼関係と絆をつないで行けるように配慮しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成25年7月24日	評価機関 評価決定日	平成25年8月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①この施設の経営母体は、有限会社アルデパランです。アルデパランでは「そよかぜ」を含め小規模多機能事業所を3ヶ所、グループホーム1か所を運営し、また、関連法人の介護老人保健施設、小規模多機能事業所各1か所を加え、広い意味での連携が出来る体制となっています。利用者に幅広い選択をして頂ける利点と併せて、人事・教育面での連携が可能となり、高齢者ケアへの貢献が期待出来ます。この事業所は、平塚市の北部金目川上流の、まだ自然が残る風光明媚なところにあります。最寄駅は小田急線東海大学前駅で、東海大学キャンパスの東側に住宅地の中にあり、歩いて15～16分程度であり、また、JR平塚駅からは、バスで30分位の所に位置しています。ここのワーカー出身の管理者のモットーは、「スタッフの働きやすい環境作り」、「云いたいことが自由に云える雰囲気作り」の2つを心掛け、ケアマネージャー2人の協力を得ながら風通しの良い職場作りに取り組んでいます。管理者も、ケアマネも現場に入り、全員が現場を熟知していることが当事業所の強みとなっています。小規模多機能事業所の特長である、時間の自由度が広い、レクリエーションのスケジュールに拘束されない、希望に応じた自由な生活を楽しむことが出来る点については、すっかり事業所の活動に定着し、利用者のロコミや小規模多機能事業所の理解の浸透により、「そよかぜ」は良いとの評判が徐々に伝わり、今では地元の方の比率が増加し、地元へ根付いた施設に発展しています。駐車場前の掲示板には、利用者の活動の一端を示す作品の紹介等があり、自動販売機利用の近所の方にも掲示内容を見て頂けるように工夫しています。
②ネットワークについては、隣町にある老健「フィオーレ」に、関連事業所の管理者、ケアマネ、本部スタッフが毎月最終木曜日に集まり、代表も出席し、それぞれの事業所が抱えている問題を検討し、共通する項目については、水平展開し、各々が向上出来るよう、検討、共有を図っています。平塚市では小規模多機能型居宅介護事業所の数も増え、社会福祉協議会の中にも小規模多機能の連絡会が出来る状況の中で、社会への“小規模多機能”の周知がまだ不十分で、小規模多機能の機能を一般に知って頂くことの重要性を認識し、啓蒙活動を行きたいと考えています。そのために、地域包括支援センターとの連携、病院のソーシャルワーカー経由のアプローチの強化、地元老人会との連携、小規模多機能の多様性の有効活用など、順次実施して力を注いでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 そよかぜ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の生活内に新たに施設での時間が加わったとしても、その方が長く過ごされてきた環境と大きな変化が生じないよう、職員一同、その方のお人柄を尊重できるような理念に基づき日々の実践につなげている。また、全体会議などで、全職員に理念を再認識してもらうよう、勉強会を通して周知し直している。	理念は開設後に、職員全員に意見を出し合って作成し、平成23年1月に見直しを行い、やさしい言葉で分かりやすいものに改めました。利用者の生活に、この事業所での生活が加わっても、その人が長く過ごされてきた環境と大きな変化が生じないよう、職員一同、その人のお人柄を尊重し、理念に基づいて日々の実践につなげています。全体会議などで、全職員に理念を再認識してもらうよう、勉強会を通して周知し、見直しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で納涼祭や、収穫祭などのイベントを計画し、自治会長さんを通して、地域の方々にお誘いのお声掛けをさせて頂いている。今回は、老人会の方々、近隣の方々等、85名の地域の方々とお食事や、創作レクリエーションを共にすることができた。また、近隣幼稚園の園児さん達とも定期的に交流会を開催している。	自治会への加入はまだ実現していませんが、地域行事（出初式、どんど焼など）への参加、福祉大会、レク大会などには参加しています。事業所主催の納涼祭、収穫祭などへ、自治会長さんを通じて、地域の方をお誘いしています。今回は、老人会の方々、近隣の方々等、85名の地域の方々とお食事や、創作レクリエーションを共にすることができました。また、近隣幼稚園の園児さん達とは老健「フィオーレ」に園児バスで来て頂き、市から屋台などをお借りして定期的に交流会を開催しています。また、幼稚園の発表会や運動会の予行演習を見に行っています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて活かせる場がとれていないのが実情。地域行事などには、毎回お誘いを頂き、そこで年に何度か地域の方々と交流させて頂いている程度。昨年より、地域の方々が持ち帰れるパンフレットを外部の掲示板に用意しており、数人の方が持っていかれている様子が見られる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の皆様のご意見、ご感想は、全体会議にて議題として取り上げ、全スタッフへ報告、検討し、サービス向上へ活かしている。また、その結果を翌々月の運営推進会議にて報告し、評価を頂くようにしている。	運営推進会議のメンバーは、自治会長、民生委員長、地域包括支援センターの方、ご家族それに施設関係者で行っています。自治会長は熱心な方であり、何かと協力して頂いています。運営推進会議で討議された意見、感想は事業所の全体会議で議題として取り上げ、全スタッフへ報告、検討し、サービス向上へ活かし、その結果を翌々月の運営推進会議にて報告し、評価を頂くようにしています。2ヶ月に1回、奇数月の第3水曜日に決めて実施を進めています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より小規模担当の職員の方々とは連携を取り合い、施設の現状をお伝えしている。また、困難な事例などは、相談させて頂き、行政からの見解も参考にさせて頂いている。職員の方々も親切に対応して下さるため、助かっている。その後の結果報告も必ずさせて頂き、協力関係を築けるようにしている。	平塚市とは日頃より、小規模多機能担当の職員の方々と連携を取り合い、事業所の現状を伝えるようにしています。また、困難な事例などについては、市役所、地域包括支援センターに相談し、行政からの見解も参考にしています。その後の結果報告も必ず行い、協力関係を築けるようにしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、2～3ヶ月に1度の話し合いを行っている。その内容は、全体会議にて全スタッフに周知させ、施設全体で気を付けるようにしている。また、勉強会を通じて、身体拘束廃止に向けた意識の再確認と知識向上に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、2～3ヶ月に1度程度委員会を開き、事例検討をメインとし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。その内容は、全体会議で全スタッフに周知し、施設全体で気を付けるようにしています。また、勉強会を通じて、身体拘束廃止に向けた意識の再確認と、知識向上に取り組んでいます。どうしても拘束が必要な場合は、ご家族等の了解を取り、記録を残すルールとなっていますが、事例はありません。玄関の鍵は開放していますが、自動ドアの自動を外して少し重たい状態にしています。言葉については、その都度、職員間で注意するようにしています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、職員に周知している。また、虐待防止に関する連絡会にも積極的に参加し、知識向上に努めている。ご利用者の中に虐待が疑われるようなことがあれば、画像と記録を残し、地域包括センターや市に相談し慎重な対応をとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様、家族様と密に話し合い、管理者、ケアマネージャーから必要な情報をお伝えしている。また、権利擁護に関する連絡会にも参加し、専門的な知識を身に付けられるようにしている。必要時に活用できるよう、関係者との連携も取るように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者やケアマネージャーよりご家族にわかりやすくお伝えすると共に、ご不明な点を伺い、お答えしている。また、契約後もそのような状況になられた際には、すみやかに対応し、改めてご説明させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、ケアマネージャーも含め、送迎も担当しているため、いつでもご家族のご意見、ご要望を承る環境作りが出来ている。また、毎日の記録、報告書を外部へ提出出来る体制も整えている。	連絡帳や日々の送迎で情報交換を密に行っています。管理者、ケアマネージャーも含め、送迎も担当しているため、いつでもご家族の意見・要望を聴ける環境体制が出来ています。毎日の記録、報告書などは、行政の要求に応じて何時でも提出出来るよう、体制を整えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて、職員の意見や提案を開き、全スタッフで検討する時間を設けている。また、普段より、スタッフからの提案や、相談は、随時、話が出来る様な環境作りを管理者、ケアマネージャー共に心掛けている。さらに、管理者との個人面談の機会を作り、スタッフの思いや意見などを理解できる時間もとっている。	毎日の反省会や全体会議で職員の意見や提案を開き、全スタッフで検討する時間を設けています。また、日々の業務では、職員の意見を積極的に尋ねるよう心掛けています。管理者、ケアマネージャー共に普段より、スタッフからの提案や相談を、随時話ができる環境作りを心掛けています。個人の面接については、年1回、春の契約更改、賃金の見直し等の為、話し合う機会を持っています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や関係者より各スタッフの勤務状況などの情報を収集して把握するよう努めている。現場での意見などは、なるべく反映できるよう、検討するよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが研修に参加できるよう、配慮している。また、関係施設間での勉強会などには、積極的に声掛けをし、グループ全体での職員教育に力を注いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者同士、ケアマネージャー同士の交流ネットワーク作りに力を入れ、情報交換の場を設けている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約頂くまでの間に、ご家族と共にご本人にも施設へいらして頂き、お話を伺う機会をもうけている。何度かお会いすることで、スタッフ達とも打ち解けられ、ご本人の不安、要望等をお話し頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の抱えておられる現状と、不安、ご要望などをアセスメントを通して、何度かお話しする機会を設けている。また、こちらから、どのようにそのようなご要望にお応えできるのか、必要に応じ、わかりやすくご説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族だけでなく、ご本人とも密に話し合い、生活環境、経済状況を把握した上で、その方に一番良いと思われるサービスを提案させて頂き、ご納得頂いたうえでお決め頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各利用者様と多くの関わり合いの時間を設け、それぞれの方のお気持ち、抱えていらっしゃる悩み等に耳を傾け、共有できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、送迎時などご家族と触れ合える機会を通して、信頼関係を築けるよう、誠実に、思いやりの心をもって交流をさせて頂いている。その積み重ねにより、ご家族から安心してご本人の情報を頂き、共に支えられる関係ができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問介護時などに、ご本人の馴染みの場にお出かけする機会を設けたり、通いサービス時に、好きな場所(レストラン、スーパーなど)に皆さんと一緒にお出かけする機会を作っている。	自宅に本拠があるので、馴染みの人や場所との関係を継続しつつ、サービスを利用できることが小規模多機能の最大のメリットです。送迎時など近所の方にお会いした時には、こちらから積極的に明るく元気に挨拶をし、利用者を交えた短い会話を交わしています。訪問介護時などに、本人の馴染みの場に行く機会を設けたり、通いサービス時に、本人の好きな場所(レストラン、スーパーなど)に出掛ける等、機会を作るようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフから積極的にお声かけし、施設内で孤立される方が出ないように配慮している。また、ゲームや歌を通して、スタッフと皆さんと一緒に楽しめる時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、ご家族には今後もいつでもお気軽にいらして頂けるよう、お声掛けさせて頂いている。実際に、その後の様子を報告して下さるご家族も多い。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	管理者、ケアマネージャーが日頃よりご利用者にお声かけし、不安やご希望等をお聞きしている。また、普段の様子に変化が見られる際には、すみやかにご家族にご報告し、ご家庭での様子、考えられる原因など情報収集に努め、ご本人が安心して暮らせるようにサポートする。	職員は勿論、管理者、ケアマネージャーも日頃より利用者の不安や希望等を聴き、また、普段の様子に変化が見られる際には、速やかにご家族にご報告し、家庭での様子、考えられる原因等について情報収集に努め、本人が安心して暮らせるように支援しています。毎日の記録については、本人が発する言葉に注意を向け、カンファレンスで確認しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人だけでなく、ご家族にもその方の生活歴、家族関係などを伺い、どのような生活をご希望されているのか、施設としてどこまでサポートできるのか、頂いた情報をもとに検討させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何気ないご家庭での様子を、ご家族が連絡帳に書いて伝えて下さる。また、こちらから気になることなどあれば、ご家族にご連絡し、最近のご家族から見たご本人のご様子等を伺い、把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、各専門分野の担当者と連絡を密にとりあい、担当者会議などの機会を通じて、ご利用者の現状の変化に対応出来るよう心掛けている。その上で、介護計画の見直しをご家族に相談させて頂きながら行っている。	毎日の記録や定期的モニタリングに沿い、本人、家族の気持ちや希望、やりたい事を大切に、現状に即したケアが実践できるよう介護計画を作成しています。また、必要に応じ、各専門分野の担当者と連絡を密に取り合い、担当者会議などの機会を通じて、利用者の現状の変化に対応出来るよう心掛けています。介護計画の見直しは、スタッフの意見、ご家族の意見を尊重しながら行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃のご利用者の様子をよりよく理解している現場スタッフにも、小さな気づきやその日その日の様子を記録に残すよう促している。また、その記録や、対応したスタッフからの情報により、介護計画の見直しの必要性を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のちょっとした変化を見逃さず、新たなニーズに対応できるよう、担当スタッフを中心に報告、相談をしている。それにより、必要と思われる新たな支援がある場合には、申し送りノートや、全体会議の場などで報告し、施設内のケアを統一できるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場で民生委員長、行政、自治会長にご協力をお願いしながら、ご利用者の皆さんが安全で豊かな暮らしが出来るには、施設として何が出来るか検討させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族ご希望のかかりつけ医と連絡をとり、必要時には、ご家族ご了承のうえ、かかりつけ医と連携させて頂いている。	基本的にかかりつけ医は今までの主治医です。本人、ご家族が希望されるかかりつけ医と連絡を取り、必要時には、ご家族了承の上、かかりつけ医と連携して支援しています。病院への通院については、送迎対応で病院まで送り、院内はご家族対応としています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、口頭での報告の他に、必ず介護記録に残し、看護職員、他の介護職員が確認できるようにしている。また、急な体調変化や事故などにも、常に看護職員と連絡を取り、医療従事者としての見解を求めて、ケアの方向性を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際には、病院関係者と連絡を密にし、施設でのご本人の情報をこまかに伝えている。また、入院中も、看護師や医師からの相談にすみやかに応対している。その際に、退院に向けての話し合いの日程が決定した際には、ご連絡頂き、立ち合わせて頂くよう、お願いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やご本人の希望を踏まえながら、かかりつけ医とも密な連携をとり、方針を決めている。また、施設として出来ること、ご家族にご協力頂きたいこと等、話し合いを何度も重ね、同時に代表にも相談を重ね、支援の方向性を一緒に検討している。	ご家族やご本人の希望を踏まえながら、かかりつけ医とも密な連携をとり、方針を決めています。また、事業所として出来ること、ご家族にご協力頂きたいこと等、話し合いを何度も重ね、同時に代表にも相談を重ね、支援の方向性を一緒に検討しています。ここでのターミナルについての対応は、原則としてサプの活動迄であり、最終的には各ご家庭若しくは、特養や病院での対応になるのが通常と考えて支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、全スタッフに会議等を通して周知させている。また、看護職員による勉強会も開き、応急処置の方法を学ぶ機会を作っている。対応マニュアルは、指定の場所に大きく掲示し、緊急時に誰もが適切な対応が出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルをもとに避難訓練等を通じ災害時に備えている。また、東日本大震災時の教訓をもとにした勉強会にも積極的に参加し、情報を得るようにしている。地域との協力体制を築くために合同の避難訓練のお願いをしているも、なかなか実現できていない。	防災マニュアルをもとに避難訓練を年2回実施し、災害時に備えています。また、東日本大震災時の教訓を基にした勉強会にも積極的に参加し、情報を得るようにしています。備蓄については、関係事業所が老健「フィオーレ」に集まって検討し、食料、水、ラジオ、懐中電灯などの備蓄に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアされるご利用者は人生の先輩であり、さまざまな経験と知識を持っていらっしゃることを常に念頭におき、誠意をもって対応するように心掛けている。また、接遇の勉強会も定期的開催し、馴れ合いからご利用者の誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。	職員は、ご利用者は人生の先輩であり、様々な経験を経て来た人生の先輩であることを常に心に置き、尊敬と尊厳の維持をもって対応するよう心がけています。また、接遇の勉強会も定期的開催し、馴れ合いからご利用者の誇りやプライバシーを損ねないように気をつけています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の施設でのご様子を観察させて頂きながら、ご本人へのお声掛けを欠かさないようにしている。ご自身の気持ちを尊重し、自己決定できる方向へ促す声掛けをするようにしている。迷っておられるときには、決して強制はせず、ご本人の普段からの様子にもとづいた納得のできる提案をするように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者とコミュニケーションを密にし、その日の体調や、お気持ちを尊重し支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が好まれる服装など、ご家族から情報を頂き、その好みに応じた対応をするようにしている。また、身に付けていらっしゃるお洋服やお気に入りのアクセサリーなどを話題に、楽しく会話をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「皆で食べる楽しみ」を感じて頂けるよう、食事介助スタッフが楽しい雰囲気を作っている。また、外から発注する食事だけでなく「作る楽しみ」を味わって頂きたく、お食事レクリエーションやおやつレクリエーションを定期的に計画し、調理段階から出来る方に出来る事をお手伝いしていただいている。	「皆で食べる楽しみ」を感じて頂けるよう、スタッフが楽しい雰囲気を作っています。また、外から発注する食事だけでなく「作る楽しみ」を味わって頂くための食事レクリエーションや、おやつレクリエーションを定期的に計画し、調理段階から出来る方に出来る事をお手伝いして頂いています。食事レクでは、冷やし中華も月1～2回作っています。お弁当を持って外へ出かけることもあります。また、食事への興味が失われないよう、メニューの工夫や行事食の工夫に努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者の食事摂取量や水分摂取量に気をつけ、お声掛けしている。また、咀嚼状態の観察も行い、提供形状もその日に応じ柔軟に対応出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には必ず付き添い、出血の有無、腫れ、痛みの訴え等に対応できるようにしている。また、残存機能を活かし、過剰な介助にならないよう、お声かけもしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を残し、各ご利用者の排泄パターンを把握できるようにしている。また、その日の体調に合わせた排泄の声掛けを行っている。ご家族からお預かりする際にも、排泄に関する情報をお聞きし、施設でのよりよい排泄の支援が出来るよう努めている。	排泄チェック表に記録を行い、施設に居る間は、個々の排泄パターンを把握し、誘導しています。訴えがない方も出来る限りトイレで排泄できるよう、時間を見てトイレ誘導を行っています。また、その日の体調に合わせた排泄の声掛けを行っています。送迎時、ご家族から排泄に関する情報をお聞きし、その方に合った排泄の支援が出来るよう努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族からの情報や普段の排泄パターンをもとにその方に合った対処法を検討している。ご家族にも相談し、必要に応じて、かかりつけ医と相談をして頂いている。また、施設としても、さつまいもなど、繊維質の多いおやつで対応することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者、ご家族の希望をお聞きし、回数、時間、介助員の性別に配慮している。また、その日のご本人のご希望も必ずお聞きし、入浴時間、お湯の温度など対応できる範囲でお応えできるよう努めている。さらに、残存機能を十分に活かした支援を心掛けている。	入浴について、本人・家族の希望を聞き、回数・時間、介助員の性別に配慮しています。入浴拒否の方については、対応のノウハウを共有し、家族を交えた話し合いも行いながら支援しています。また、その日の本人の希望も必ず聞き、残存機能を活かすよう心掛け、入浴時間、お湯の温度等、対応できる範囲で個々に応じた支援に努めています。浴槽は、機械浴と檜風呂が2つ設備されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静養の希望など、ご本人の意思に沿ってお応えしている。また体調をふまえ、スタッフからお声かけし、休息の時間を作るようにしている。夜間などは特に、その方の眠りのサイクルに合わせ、就寝のお声掛けや、居室の環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されているお薬は、お薬シートのコピーを取らせて頂き、ファイルを作成し管理している。毎食後のお薬は、看護職員と複数のスタッフで三重確認をしており、服薬介助時も最終確認を2人以上のスタッフで行っている。服用しているお薬の内容に変化が生じたときには、すみやかにファイルの更新を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段からのご利用者のご様子を踏まえ、施設の一員として所属している喜びを感じて頂けるような行事、レクリエーションを実行している。また、お得意な分野でのお手伝いもお願いし、達成感を感じて頂けるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大きな行事だけでなく、その日のお天気に応じてお散歩、ドライブなどもこまめに行っており、ご利用者の活気に繋がっている。また、ご家族がなかなかお連れできないレストラン、大手ショッピングモール、遠足なども定期的に企画し、ひとりでも多くのご利用者が楽しめるように配慮している。	大きな行事だけでなく、その日の天候に応じて事業所周辺の散歩や、ドライブ等を行ない、日常的な外出支援に努めています。また、レストラン、大手ショッピングモール、遠足等も定期的に企画し、一人でも多くのご利用者が楽しめるよう配慮しています。送迎車の他、老健「フィオーレ」のキャラバン（大型車）の借用も可能です。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では原則、現金の持ち込みはご遠慮頂いている。ただ、普段の生活で、お財布を持ち歩かれ、それが無いことで不安や不穏になられる方に関しては、最小限の持参を了承している。ショッピングモールや、おやつレクでの買い物には、ご利用者も同行して頂き、一緒にレジにてスタッフとお支払をして頂くこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ショートステイご利用時などは特に不安になれるご利用者もいらっしゃるため、あらかじめご家族にお手紙等を用意して頂くようにしている。また、日中でもご利用者が切に希望されているときには、ご家族にあらかじめ了承を得て、お電話させて頂くこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日夕方には、必ず掃除を行い、気持ちよくご利用頂けるように配慮している。また、お花、ご利用者との行事のお写真、ご利用者の作られた作品等を飾り、施設内のどこでも楽しんで頂けるように配慮している。	共用の空間は明るく、衛生的な雰囲気、居心地の良い環境を作っています。毎日夕方には、必ず掃除を行い、気持ちよく利用頂けるように配慮しています。また、お花、行事の写真、利用者の作った作品等を飾り、施設内のどこでも楽しんで頂けるように配慮しています。利用者の作品は、本人の許可を得て、施設外の掲示板に掲載し、ご近所の方にも見て頂く機会を作っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中多くの時間を過ごされるフロアでは、仲のよいご利用者同士でお席を共にできるよう配慮している。また、静養を希望された時や、静養が必要な時などは、個室をご利用頂き、静かにお休み頂けるような環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段ご自宅で使用されている馴染みのある枕、クッション、膝掛けなど、小物を持って来て頂き、安心してお休みできるように配慮している。	居室は、利用者をご自宅で過ごされている環境に近づけられるよう、ご希望を考慮し、出来る範囲で対応していますが、共用の居室なので、大物は持ち込むことはできませんので、普段ご自宅で使用されている馴染みのある枕やクッション、膝掛け等、小物を持って来て頂き、安心して居心地良く利用できるように配慮しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置、場所の表示をわかりやすく明記するなど、安全に施設内を歩けるようにしている。各ご利用者の残存機能をしっかり把握し、過剰なお声掛けや介助にならないよう、見守るようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 小規模多機能型居宅
介護施設 そよかぜ

作成日 平成25年7月30日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	終末期のご利用者への ケアの在り方	ご家族、ご本人の意向 や環境を踏まえ、施設 としてどのように支援 できるのか、ご家族に 早く提示できるように する。	早めの情報収集し、かかり つけ医との密な連絡を取り ながら、終末期の支援が出 来るのか否かをはっきりと お伝えする。また、全ス タッフの意識を一つにして ご本人を支援する。	6 ヶ月
2	35	地域との協力体制の 確立	地域の方々との信頼と 絆を深めていきたい。	運営推進会議などの機 会を通し、施設でイベ ント等を開催し、地域 の方々と交流を図る。 地域の防災訓練等に参 加させて頂けるよう、 お声かけしていく。	1 2 か月
3	3	介護分野における地域 貢献	地域の方々が気軽に相 談できる施設をめざ す。	地域包括センターを介 しての介護教室や相談 会の開催。	1 2 か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。